

令和5年度第1回一関市博物館協議会 会議録

- 1 会議名 令和5年度第1回一関市博物館協議会
- 2 開催日時 令和5年8月4日(金) 午後2時から午後3時45分まで
- 3 開催場所 一関市博物館 研修室
- 4 出席者
 - (1) 委員 熊谷常正委員(会長)、砂金文昭委員(副会長)、佐藤幸雄委員、佐藤泰彦委員、千葉信胤委員、千葉幸子委員、菅原真利子委員、平澤広委員、齊藤三郎委員、佐藤浩委員、松岡千賀子委員
 - ※ 欠席者 小笠原浩委員、石井美樹子委員、佐野修弘委員、佐藤憲一委員
 - (2) 事務局 小菅正晴教育長、菊池勇夫博物館長、佐々木修路博物館次長、相馬美貴子博物館主幹、大衡彩織博物館副館長兼学芸係長、滝澤清博物館庶務係長、高橋紘博物館学芸員、鈴木雄己博物館学芸員

5 議題

(1) 協議

ア 令和4年度博物館事業実績と内部評価について

イ 令和5年度事業の取り組み状況について

(2) 報告

ア 一関市博物館条例の一部を改正する条例の制定について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 0名

8 挨拶

(1) 小菅正晴教育長

委員の皆様方には、当協議会の委員をお引き受けいただき御礼申し上げます。

一関市博物館協議会は一関市博物館の運営について審議いただく機関であり、皆様は、学校教育、社会教育、学識経験者、あるいは家庭教育実践者など、それぞれの分野でご活躍になっている方々のため、多角的、専門的なご意見ご助言をいただき、今後の博物館の活動に生かしていきたいと考えている。任期は令和7年6月までの2年間となるので、よろしくお願ひしたい。

さて、この3月に一関市の小中学校が43校から35校になった。10校が閉校し、2校が新しく開校している。全国的な人口減少の中で、今までに無いような規模での学校統合をせざるを得ない状況であった。人口減少は市長が

常日頃から申しているとおおり、最も大きな課題である。この人口減少のなか、地域の誇りや愛着をどう育てるか、将来に向けての課題である。本市は「大槻三代」のように日本の知識を代表するような方を輩出していることをはじめ、非常に文化的な厚みのある地域だと思っている。こうした地域の歴史や文化を展示して、市民にお伝えし、さらに市民以外の方にもおいでいただくことで、博物館も大きな役割を担っていると考えている。

本日は、昨年度事業の実績、本年度事業の実施状況についてご説明させていただくので、忌憚のないご意見をいただきたい。

(2) 菊池勇夫博物館長

私からは博物館事業について説明させていただく。皆様もご承知のとおり、当館所蔵の大槻家関係資料 4,048 点が令和 5 年 6 月 27 日に重要文化財に指定された。歴史資料として、まとまった資料群での指定である。中身としては著述稿本類、文書・記録類、書画類、典籍類、器物類、写真といった資料が一括して重要文化財の指定を受けた。当館として大変嬉しいことであると同時に責任も感じている。地域の宝であり、国の宝でもある重要文化財をどう保存して、公開し、将来に伝えていくのかという責務である。そのためには傷んだ資料があるので修復が必要となる。これはお金のかかることで、補助金はあるが全額ではないため、市の負担が生じてくる。それも 1 年 2 年ではなく、長期にわたって保存修復に取り組んでいかなければならない。そうしたことの理解をいただいくためには、大槻家資料の価値、意味を分かりやすく市民に伝えていくことが必要と考える。展覧会の開催や出前講座、インターネットや紙媒体の刊行物など、様々な手段で取り組み、ご理解をいただいくかなければならないと考えている。さらに、連続講座やシンポジウムなどを企画していくことになるが、館内の人員が少ないので、外部から協力しやすい仕組みを作っていく必要がある。これから長期的に様々な事業計画を立てていくので、協議会で意見をいただきながら進めて行きたい。

また、重要文化財や国宝を博物館で公開するにあたり、文化庁の公開承認施設という制度がある。これについても、6 月 13 日に引き続き承認を受けたので、併せて報告する。

今年度の活動については、展覧会を二つ開催している。最初は「山」というテーマ展を開催した。山を通じて景観や環境などの問題を取り上げた。関連行事として館長講座、講演会を毎週連続して開催することができたが、参加者が例年に比べると少ないという印象を持っている。工夫改善をしていき

たい。現在開催中の「大槻家ファミリーヒストリー」については、先に述べた大槻家関係資料を紹介する内容となっている。今後は、秋に福井良之助の生誕100年を記念する企画展を開催する。いわゆるガリ版で芸術的な作品を創り出した方で、福井良之助の作品を一度に沢山見ることができる貴重な機会となるので、是非ご覧いただきたい。

9 会長・副会長の互選

互選の結果、会長に熊谷常正委員、副会長に砂金文昭委員を選出した。

(1) 熊谷常正会長挨拶

個人的なお話からさせていただくと、30数年前の一関市博物館構想の段階から関わらせていただいた。この博物館が開館して四半世紀以上の時が経ち、取り巻く社会情勢、社会的な環境が大きく変わった。それを受けて、先般博物館法の改正が行われ、重要な項目についての改編が行われた。中でも一番大きいのは、これまで社会教育機関と位置づけられていた博物館が、社会教育機関であると同時に、地域における観光振興を含めた文化的な活動の拠点となるよう、基本的な路線が修正されたところである。しかし、博物館は基本的に地道な調査研究、重要な資料をきちんと保存し、未来に遺すという活動がやはりベースにならなければいけないと思っている。

一関市博物館は四半世紀以上に亘る間に、東北地方だけでなく全国に誇れるような博物館に成長してきた。この協議会が博物館の活動を少しでも支える力になればと思っている。皆様方からの貴重な意見をいただきたい。

(2) 砂金文昭副会長挨拶

自分の学習のつもりでこの任を受けさせていただいた。今日一日、博物館に浸りながら、これからの在り方を皆さんと共に考えていければと思っている。

10 協 議

(1) 令和4年度博物館事業実績と内部評価について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委 員 一点目は、壁面の照明について、以前にも少し暗いのではないかと
言ったが、改修はどんどん出来そうなのか。お客さんがいない時は暗くても構わないが、お客さんがいる時は明るくしてほしいという人が
沢山いた。

二点目は、古文書講座で浅野内匠頭身柄預り一件をやっているようだが、脇田郷にいた藩士でワタナベゼンエモンが浅野家家臣の片

岡源五右衛門の次男六之助を15歳まで面倒を見たとあるが、本当かとの問合せがある。博物館に資料があれば是非見せてほしい。

三点目は、大槻玄沢の住宅跡に標柱はあったが石碑しか無いようだ。今後どうなるのか。博物館では関係していないのか。

事務局 一点目の壁面の照明について、蛍光灯からLEDに替えても、光を当てる「ルクス」は変えることができない。印象としてはLEDの方が同じルクスでも明るく感じるため、LEDに替えるとよい効果があるかもしれない。博物館で使用するLEDはかなりの金額になるため、段階的に改修していくということでご理解をいただきたい。

二点目の脇田郷の一関藩士の資料について、私は未だ見たことがないので、見つけたらお知らせしたい。

三点目の大槻玄沢の旧宅跡については、数年前に解説板を文化財課で新しくしている。博物館として直接関わるということはない。

委員 常設展示の入れ替えや企画展・テーマ展のテーマについて、内容や企画はどのようにして決めているのか。誰が、どのような基準で選んでいるのか。

事務局 常設展示については、それぞれテーマが決まっているので、資料の状態やその時々話題などにより、担当している学芸員が考えて館内で共有して展示替えを行っている。大規模なものではなく、資料の入れ替え程度のものである。企画展・テーマ展については、それぞれの学芸員が次はどのような展示にするかを持ち寄って、学芸員の中で協議や調整をして、館内で共有して最終的に決定している。

委員 広報活動のなかでフェイスブックとあるが、フェイスブックの更新は誰がどのようにしているのか。

事務局 フェイスブックの更新については庶務係で対応している。リアルタイムに情報をお伝えするようにしている。SNSは続けて発信していくことが大事だと考えている。簡潔に回数を多く発信していきたい。

委員 入館者数の統計について、新型コロナウイルス感染症の影響もあるかと思うが、令和3年度と比較すると令和4年度は若干減少している。要因を分析しているか。

事務局 令和3年度は企画展で棟方志功展を開催した。令和3年度入館者15,750人のうち11,400人弱が棟方志功展の開催期間の入館者数となっている。1万人を超える入館者のあった展覧会はこの時が初めてで

あった。令和3年度は開館以来5番目に多い入館者数となっている。

委員 ちなみに一番多い平成29年度は何があったのか。

事務局 平成29年度は大きな展覧会を二つ開催した。一つは文化庁との共催で文化庁所蔵の国宝や重要文化財を紹介した「新たな国民のたから」を開催した。短期間だが非常に多くの人に入館いただいた。もう一つは一関にゆかりのある写実的な油絵を描く画家の「森本草介展」を開催し、こちらにも非常に多くの方に入館いただいた。

委員 博物館や美術館の入館者の推移は、5年、6年位の期間で見なければ分からない。単年だと企画展の趣旨によって大きく変わる。ポピュラーで入館者が見込めるものだけを開催するのではなく、入館者は少ないがやらなければならない内容もある。交互に5年位の期間で計画しているものなので、5年から6年の展覧会の流れで評価していただきたいと思う。

委員 一関市の博物館という事で、地域の課題や地域にとって重要な内容は入館者はあまり伸びないが、きちんと紹介して、資料を収集し、保管しておくための体制を整えるためにも大事である。人が呼べるだけではなく、地域に根差した展示が地域における博物館の重要な役割だと思う。一関市博物館はそうした均衡が取れている数少ない公立博物館の一つだと思う。是非頑張ってください。

(2) 令和5年度事業の取り組み状況について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 昔の道具を展示しているが、子ども達が道具を実際に触りたがっていた。そういった意味で民俗資料館の農具展示は大変よいと思っている。空き校舎に資料を展示してはどうかと意見してきたが、花泉の学校統合に伴う空き校舎の活用の見通しについて聞きたい。予算がかかることはわかるが、予算のかからない方法もあるはずである。

もう一点、NEC跡地に美術館を整備することについて、これについても見通しをお願いしたい。

事務局 昔の道具の展示は小学3年生が昔の暮らしについて学習する際、厳美市民センター脇の鈴木家住宅と併せて見学していただくこととしている。学芸員がいる場合は説明の際に触ってもらうことはあるが、藁が落ちたりするため、原則は触ってはいけないこととしている。

事務局 花泉は7校が閉校した。閉校校舎の活用については、市の方針とし

て産業用地として活用することを前提としている。現在も市内 15 か所の空き校舎に文化財を収蔵している。広域に渡っており、集約して整理していくこととしている。基本的に、西は博物館、東は民俗資料館を展示場所として、ローテーションをしながら展示していく方法を基本としている。空き校舎に資料を展示するとなると予算、人員、資料の運搬などが絡んでくる。現状は民俗資料館の入館者も多くないので、そちらの周知を行い、入館者が増えてきた場合の課題として捉えている。

委員 花泉地区の民俗資料はどこに蓄積、保管されているのか。宮城県北とここの稲作文化は独特の宗教的なものもあり、面白いものだと思う。積極的に集めておかないと将来花泉地区に民俗資料を整備する場合、材料が無くなってしまうのでご検討いただきたい。

事務局 花泉にもあるはずである。現状は市内 15 か所あり、多すぎる状況である。集約整理と目録の作成に一人があたっている。

委員 NEC跡地は5年後に最終決定することになっている。いわい美術振興協会では積極的にあそこに美術館建設を要望している。観光客が一ノ関駅で降りて、2から4時間一関の文化を楽しんでいける環境はほかに無い。このことは一関市博物館の将来に大きく関係してくることなので、博物館の将来を見据えながら考えていかなければならない。博物館も30周年を前にして、そろそろ博物館の将来像を考える時期に来ていると思う。美術資料なり、郷土資料をどう管理維持していくか、NEC跡地の活用も含めて、全体的な芸術文化の振興について考えるべき時期に来ているのではないか。博物館の30周年記念事業は何か考えているのか。

事務局 空調などの整備でも相当な金額がかかるため、財政課とも協議しているが、なかなか予算がつかない状況ではある。一関市の場合、公共施設が非常に多い。これを減らしていこうとしているところである。これとは逆に施設を増やすとなると、財政負担もあり非常に大変だと思う。議論するのは結構だと思うので、もっと盛り上げていかないと簡単ではないのではないかと。NEC跡地の取得だけで23億円かかる。さらにそこに公共施設を建てるとなると何十億円かのお金がかかるので、これに市の財政が耐えうるかという問題に行き着く。

委員 市長は民間資本を導入して、それぞれの専門分野の事業をあそこに

投入していくことを考えているようだ。市の持ち出しを前提であそこを開発することは念頭に無いようだ。様々な分野の資本を持っている方の開発の拠点にしたい構想のようなので、期待をしている。

事務局 一番の目的は雇用の確保なので、美術館建設までは未だ話題になっていないと見ている。ここでの議論もよいが、もっと大きなスケールで考えなければ難しいと思う。

委員 資料9ページ体験学習について、昨年と比較すると、刀鍛冶修行が今年度の事業には入っていない。昨年度の成果と課題には「更なる注意喚起と見守り、指導が必要」とあるが、昨年何かトラブルがあって、今年度は取り組まないものか。

もう1つは何年か前に刀剣女子が博物館に集まって新聞などで話題となったが、今は集まっていないのか。そもそも刀剣女子は歴史に興味があるのか、コレクターとしてやっているのか。

事務局 昨年度と今年度の交流連携活動を比較すると減っているところがあるが、予算の削減が一番の理由であった。もう1つの刀剣女子については、直接聞いた訳ではないが、どうやらこのような傾向があると感じたところをお伝えすると、刀剣女子は日本刀全般ではなく、刀剣の出てくるゲームやアニメーションなどに出てくる特定の刀剣に非常に興味を持っていると思われる。刀剣女子の中には日本刀全般に興味を持って鑑賞したり、様々な体験をしようと思われる方もいたようだ。

委員 交流連携活動事業について、予算削減で事業を減らしたという話だが、子ども達を対象とした体験学習ではあるが一般も体験できるよう年間を通して予約制にし、料金も一般は引き上げて、体験提供をやってみてはどうか。人口減少などの要因があり、予算削減は博物館だけではない。予算が無いなかでどうするか、収益を生む形を模索すべきではないか。体験学習も一般ができるものがあれば、職員の負担も考慮して予約制などでやっていくのはどうか。見るだけではなく、体験もできたということはプラスになるのではないか。

事務局 体験学習その他については様々方策を検討していきたい。市の予算では、いただいた料金をそのまま事業に充てるという形ではないので、料金を頂戴して収益を上げることは着眼点として大切にしたいが、それによって予算を獲得できるというものではないことを説明させて

いただきたい。

委員 協議 1 で内部評価の項目があったが外部の評価を伝えたい。先日、県内の博物館と美術館から来ている刊行物の整理を行った。各館から年報は届いているが、展覧会の図録などはほとんど届いていない。唯一届いているのが一関市博物館である。展覧会毎に刊行物を作っていない館が多いことだと思うが、しっかり展覧会の記録が残り、これがたたき台になり、様々な研究が進む。記録の蓄積を行っているのが一関市博物館であると、外部から見ている。自信をもって活動していただければと思う。

もう一つ、重要文化財に指定された経緯、働きかけなどは行ったのか。

事務局 大槻家関係資料が重要文化財に指定された経緯については、7年程前から文化庁の調査が始まった。こちらから声がけしたわけではなく、文化庁から声がけがあったものである。当館で作成した展覧会の刊行物や研究報告が文化庁の担当者の目に留まったということになると思う。収集した資料についても、大槻家関係資料というと大槻家から寄贈を受けた資料が、そのまま重要文化財に指定されたイメージがあるかと思う。大槻家も現在は子孫が数家に分かれており、それぞれに博物館から働きかけをして寄託寄贈していただいたり、研究者から寄贈していただいたもの、あるいは博物館で購入したものなど、四方から集めた資料がまとまって系統立ててあるという評価をいただいて重要文化財指定となったものである。

委員 現在開催している重要文化財指定記念特別展を会議前に見た。非常によい展覧会なので、ほかの博物館での展示なども考えてみていいのではないか。この施設だけでなく出張展示などで、どこかの施設で展示する働きかけがあってもいい資料だと感じた。

事務局 この機会に図書館などと連携しながら、関連する部分は展示したいと考えていた。また、大槻家関係資料が重要文化財に指定されたこともあり、B & G財団の補助金を活用し、大槻三代に関する漫画を作成して市内小学校に配布する。大きなインパクトがあると考えている。この機会に市民を中心に周知を図っていきたい。

11 報告

一関市博物館条例の一部を改正する条例の制定について、別紙資料に基づき

事務局から説明を行った。質疑等なし。

12 その他

事務局から全体に対して意見を求めた。以下、意見等。

委員 一関市博物館の看板の表示が背景の模様と一体化して見づらいので
改善が必要ではないか。

事務局 確認する。

13 担当課 一関市博物館